

風呂敷を使ってエコを学ぼう

—日本の生活文化と「MOTTAINAI」—

日本の伝統文化の一つであり、日本人の生活の中で古くから根付いてきた「風呂敷」が今、改めて見直されようとしている。風呂敷のよさを発見する中で、環境の視点が一枚の風呂敷から見えてくる。先人の知恵にふれ、環境の視点も視野に入れたこれからの衣生活を考えさせていく上で、「風呂敷」を切り口に授業づくりに取り組んでみた。

1. 今、なぜ「風呂敷」か

「包む」ということは日本人の心理を表す重要な概念の一つである。「包む」には人の感情や表情を内に抑えて外に表れないようにするという意味もある。その「風呂敷」が、近年はケニアのワンガリ・マータイ氏によって世界に紹介され、「MOTTAINAI」ということばと共に広がっている。「風呂敷」はスーパーやコンビニのレジ袋に替わる、マイバッグとしての使い方もできる。身近にある（各家庭に一枚はある？）「風呂敷」を活用し、様々な授業展開を考えていけるのではないだろうかと考え、この題材を選んだ。また、日本の伝統文化を生かしきれていない現状を見直すきっかけにもつながると考える。

2. 授業の指導観

風呂敷の授業に入るまでに、生徒は衣服の役割や既製服の選び方などについて学んだり、日常の手入れの仕方を実践して、レポートを作成したりしている。また、生活に役立つ物の製作に意欲的に取り組んできている。風呂敷の授業では、衣生活のまとめとして、伝統的な生活文化のよさに気付く、「環境」という視点から自分の衣生活を見直そうとすることをねらいとする。

3. 展開「日本の生活文化のよさについて考えよう」

①風呂敷のよさを考える（実際に風呂敷でボールやペットボトルなどを自由に包ませる。よさに気付かせるためにいろいろな結び方で包んだ物を用意する。真結

びなどの結び方についても簡単に触れる。下図参照）。
②マータイ氏が風呂敷を世界に広めようとしているのはなぜか、考える（国際的に風呂敷が注目されつつあることを強調するためマータイ氏の活動を紹介する）。
③風呂敷のよさを環境の視点から整理する（3Rについて再確認させ「MOTTAINAI」に日本の生活文化のよさが表されていることに気付かせる）。
④自分の衣生活を振り返らせる。



4. 応用

草木染めや型染め、ステンシルでの絵付けや刺し子をほどこし、マイ風呂敷を製作したり、世界各地の一枚布の使い方の多様性を通して伝統の技や知恵を学ぶこともできる。風呂敷の柄に注目した展開も考えられる。総合学習などで取り組むのもよいのではないだろうか。

5. 指導計画・評価計画(15時間) (関:関心・意欲・態度 工:工夫・創造 技:生活の技能 知:知識・理解)

	学習活動・内容	手だて (○) と発問 (★)	時	評価規準
習得 ↓ 活用	1 衣服の役割について知る。 ・衣服の役割		2	知:衣服の役割を理解する。
習得 ↓ 活用	2 T. P. O. に応じた着用について考える。 ・T. P. O. に応じた着用	○さまざまな場면을例示して衣服の社会生活上のはたらきを知る。 ★「次の場面ではどのような服を着ますか、それはなぜですか」と問い衣服の役割やT. P. O. に気づかせる。		工:目的に応じ、自分の個性をいかした既製の服の選択ができる。
習得 ↓ 活用	3 既製の服の選び方について知る。 ・既製の服選びのポイント			
習得 ↓ 活用	4 自分の個性にあった既製の服の選択について考える。 ・既製の服の選び方 ・個性を生かした着用	○既製の服選択のランキングや自分の衣服を持参して組み合わせを考える。 ★「夏のお出かけファッションを選ぼう」を問い、自分の服選びの間違いや大切なことは何かを考えさせる。		技:さまざまな視点から既製の服を選ぶことができる。
習得 ↓ 活用	5 日常着の手入れの仕方を知る。 ・衣服の材料 ・洗濯の仕方 ・表示の見方	○自分の衣生活をふりかえらせる。 ★「衣服が着られないときってどんなときだろう」と問い、日常的な手入れや補修の必要性に気づかせる。	3	知:繊維の種類と特徴を理解する。
習得 ↓ 活用	6 衣服の手入れと補修を行う。 ・補修(まつり縫い・スナップ付け)のしかた ・洗濯のレポート作成	○基礎的な補修技術の練習や家庭実践による洗濯のレポートを書かせる。 ★「この衣服を洗濯しよう」と問い、表示を見て洗濯をすることに気づかせる。		技:衣服の補修(まつり縫い、スナップ付け)ができる。 技:表示を見て繊維にあった衣服の手入れができる。
習得 ↓ 活用	7 製作の計画をたてる。 ・用具の取り扱い・製作方法 ・安全な作業	★「使用目的を考えて自分らしいバッグを作ろう」と問い、個に応じたバッグのデザインをさせる。	8	工:自分の使用目的に合わせたデザインの工夫をする。
習得 ↓ 活用	8 生活に役立つ物を製作する。 ・マイバッグ作り			関:意欲的に製作に取り組む。 技:安全に作業し、目的に合わせた縫製ができる。
本時	9 より良い衣生活について考える。 ・伝統的な生活文化の良さ ・3R ・MOTTAINAI	○風呂敷の特性に気づかせるために、形の違うものを包んだ例を準備する。 ★「製作したバッグと比べて、風呂敷のいいところは何ですか。」と問い、伝統的な生活文化の良さに気づかせる。	1 / 2	知:伝統的な生活文化の良さを説明できる。
活用	10 これからの衣生活を考える。 ・環境に配慮した衣生活 ・衣服の計画と再利用	★「環境の視点から自分の衣生活を見直してみよう。」と問い、自分の衣生活の課題を考えさせる。	2 / 2	工:環境の視点から自分の衣生活を見直そうとしている。 関:よりよい衣生活をめざした実践的な態度を身に付ける。
【めざす生徒像】 衣服の役割を理解し、基本的な衣生活の技能を習得したうえで、環境に配慮しつつ主体的に衣生活を営める生徒。				